

おかやま 河川だより

高梁川特集



みなさんこんにちは。日毎に暑さが増し、涼風の恋しいころとなりました。朝夕、多くの方々に川岸に出かけていただき、風を感じながら水辺の自然を楽しんでいただきたいと思います。

さて、今回は高梁川の特集です。高梁川は、かつて、川島川や川辺川、松山川と呼ばれていました。明治になって備中松山が高梁と改名されたことで高梁川となり、旭川と吉井川とともに岡山県の三大河川のひとつとして、多くのみなさまに親しまれています。また、高梁川は古くから豊かな自然の中で人との関わりが深く、歴史と文化を育んできました。そんな高梁川のこれからの整備をめざす方向について紹介します。(副所長 小坂田 堅)

この広報紙は、県内市町村の広報コーナー、岡山河川事務所並びに各出張所に置いてあります。また、岡山県内の道の駅及び高速道のサービスエリアにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。



吉井川



旭川



高梁川

岡山河川事務所
国土交通省 中国地方整備局

高梁川

高梁川の 미래の川づくり

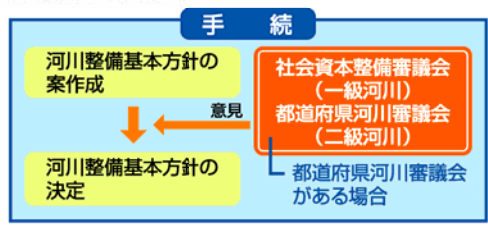
○高梁川 ～その求める姿は～

治水・利水・環境の三要素から、将来的な高梁川の基本的な方針を定めた「高梁川河川整備基本方針」が、岡山三大河川（高梁川・旭川・吉井川）のトップをきって策定され、近々官報告示される予定です。

今後は、未来の川づくりについて、ひろく地域住民のみなさんに意見を伺いながら具体化していきます。それでは、高梁川の将来像についてご紹介しましょう。

河川整備基本方針

【内容】基本方針、基本高水、計画高水流量等

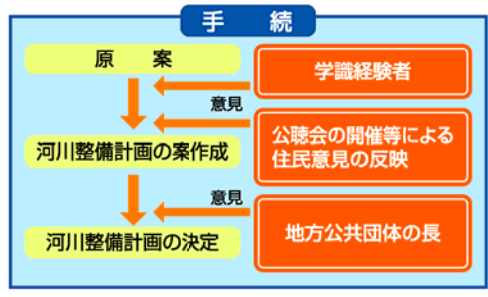


河川整備の基本的な方針（考え方）を長期的な視点で定めたものです。

社会資本整備審議会（国土交通大臣の諮問機関）の意見を聴いて国土交通大臣が定めます。

河川整備計画

【内容】河川工事、河川の維持の内容



個別事業を含む今後、20～30年間に行う、具体的な河川整備の内容をまとめます。

関係住民、県知事、学識経験者からの意見を伺って、中国地方整備局長が定めます。

岡山河川事務所では、高梁川水系河川整備計画策定にあたり、原案作成のために直轄管理区間の沿川住民の方を対象とした意見を聴く会などを予定しています。意見聴取は事務所ホームページに加え、幅広く地域住民のみなさんのご意見をいただけるように、広報誌への情報掲載やアンケート配布などを行ないます。

河川工事・河川の維持

高梁川流域の課題と対策

○高梁川下流部の堤防整備状況

総社市湛井付近から河口までの国が管理する区間は、明治26年の大洪水を契機として、18年間の歳月をかけて大正14年までに現在の形になりましたが、堤防の高さがあっても幅が不足している箇所が多く存在しており、十分な堤防断面が確保されている堤防は、全体延長の37%しかありません。

現在、堤防の決壊要因にもなる漏水発生の危険度について、堤防の土質を調査中です。国が管理する区間は約64%（H19.3時点）が調査済みで、そのうち21kmで堤防の補強が必要という結果でした。



明治～大正期の河川改修事業

○課題と今後の治水対策

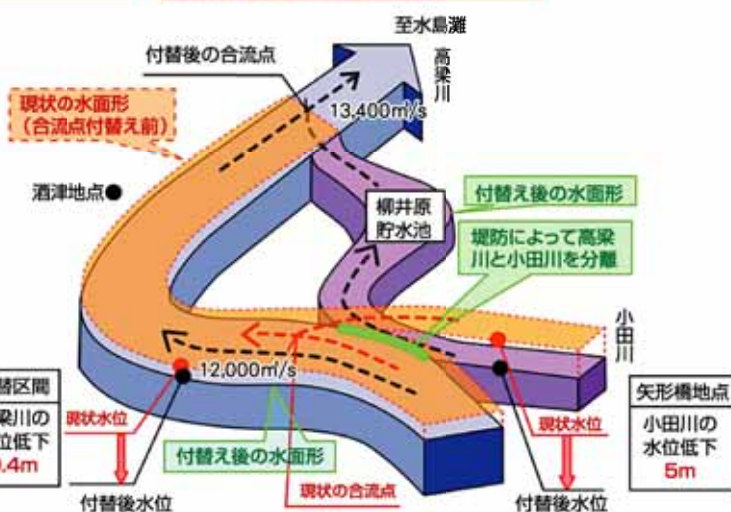
①小田川は水の流れがゆるやかなので、洪水時には高梁川との合流点では、高梁川の影響で小田川の水位も上昇してしまい、小田川流域では広い範囲で内水はらんの危険性が高くなっています。小田川流域では、昭和47年の洪水や昭和51年の台風17号では大きな被害が発生しました。とくに、昭和51年には真備地区で浸水面積67.6ha(後楽園の5倍)、浸水家屋数587戸などの甚大な被害がありました。現在でも内水はらんの危険性は高くなっています。また、酒津付近は洪水を安全に流すために河道を広げるか、河川水量を少なくすることが必要です。 **対策：小田川合流点付替え**



昭和51年9月洪水の浸水区域

内水被害解消

小田川と高梁川の合流点を酒津より下流に付替えることで、小田川の水位を低下させることができ、かつ酒津付近の洪水水量を少なくします。



台風16号による高潮被害

②平成16年の台風16号により、水島灘では過去最高潮位を観測し高潮被害が発生しましたが、高潮堤防が十分な高さに整備されていませんでした。 **対策：計画的に高潮対策を実施**

③堤防の大部分が明治、大正期に川ジャリを使って作られていることから、水漏れや崩壊する危険があります。 **対策：堤防の詳細点検により堤防危険箇所を早急に把握**

利水 ～高い水利用率～

高梁川の水は、かんがい用水、工業用水、水道用水などの生活用水として利用されていますが、大部分の取水が下流部で行われています。高梁川の水は、笠岡市や瀬戸内海の島しょ部にも送水されており、かんがい用水は古くから岡山平野の西半分をうるおしています。しかし、岡山は瀬戸内式気候で少雨地域にあたるため、平成に入って2年、4年、6年、14年、17年と取水が制約される渇水状態が頻繁に発生しています。

年間の河川水量に対する水利用率は52%(H15)と高く、流域内に多くの利水ダムを建設しなければ、下流部では安定した取水が行えない河川になっています。



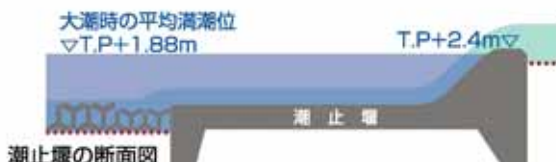
高梁川下流部におけるかんがい区域図



河口部にある潮止堰

高梁川の最下流端にある潮止堰は大正末期に設置され、その後の災害による改築を経て、昭和42年に現在の形になりました。この堰で水島コンビナートの取水が行われています。

平成16年の台風16号では過去最高潮位(T.P+3.22m)を記録し、潮止堰を海水が越えたために河川からの真水が取れず、一部企業が生産停止になる事態が発生しました。



環境 ～守るべき自然と改善すべき自然～

○高梁川の自然環境

高梁川には様々な生き物が生息しています。過去の魚類調査(H2～H9)では、淡水魚の出現種数が全国で6番目となっており、良好な河川環境が存在していると考えられます。

高梁川の中上流部にはレキ河床を好むアカザのほかオオサンショウウオやカワシンジュガイなど貴重な生物が多数生息しています。また、井倉峡を代表とする石灰岩峡谷や帝釈峡など多くのエリアが自然公園や環境保全地域に指定されています。



井倉峡の石灰岩断崖

○貴重種などの環境保全

高梁川水系には潮止堰をはじめ160ヶ所以上の堰があり、魚の移動障害になっているものもあります。

高梁川・小田川の下流域では堰による湛水区域が広がり、堰の上流ではコイ、フナ類や外来種となるオオクチバス、ブルーギルが生息しています。これら大型の捕食者を避けるように回遊性魚類であるアユやタナゴ類の重要種が生息していますが、河川や農業用水路の改修により生息域の減少が懸念されています。

一方、潮止堰から河口まではヒイラギ・シラウオなど汽水環境に生息する魚類も確認されています。



スイゲンゼニタナゴ



○河道の樹林化対策について

高梁川下流域には、上流から流れてくる土砂の堆積箇所や、河川敷を中心にアカメヤナギ、ハリエンジュなどの樹木が密生する風景が見受けられます。しかし、樹木が繁茂しすぎると洪水時にはそれが原因で洪水が流れにくくなり、水位が上昇する箇所も発生するようになっています。

河川環境の保全に配慮しつつ、洪水の安全な流下を図るために計画的な河道掘削や伐木を行う必要があります。

【おわりに】

高梁川には、以上のような課題がありますが、今後どのようにして解決していくのかを沿川住民のみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。



おかやま河川だより第7号をご覧頂いた方から沢山の
意見・ご質問をいただき誠にありがとうございます。
今回は、一部であります但質問にお答えいたします。



昨年のお水時、伏流水による道路、田が土砂による吹き上げ被害があったが、その後、表面のみの補修であり、大変不安である。再び前回同様の出水があれば相当の被害が
でるのではないか？(総社市清音)



昨年度の増水では、総社市清音地区で42カ所の
吹き上げ(基盤漏水)が発生しました。これにつ
いては、岡山大学・総社市の協力のもと技術検討会を
設立し、対策工法を検討しました。今年5月には、
地元説明会を終え、今年度中に対策工事を実施する予定です。

しかし、対策が完了するまでは、同様の現象が予想されます。
異常を発見した際は、総社市もしくは岡山河川事務所へ一報を
お願いすると共に、土のう積みなどの簡易な応急対策等のご協
力をお願いします。

最近では集中豪雨や地震など、予測を超える災害が発生し行政のみでは十分に対処できないケースが多
発してきているため、行政と地域が一体となって防災活動などに努めていく必要があると考えています。



災害の様子

初投稿 『和気町民の憩いの場が出来ました』



和気ライオンズクラブ 会長 / 杉山 幸男

町民の憩いの場として整備している「ライオンズの森」を花で飾ろうと一昨年の春、国交省と町の協力を得て手作りの花壇が完成しました。会員が都合のつく日に集まっての作業でしたので、出来上がるまでに3ヶ月近くかかりました。アジサイの植え付けは町にお世話になりました。今年5月の草刈には和気中学のテニス部の協力があり、お陰で綺麗に花が咲きそろいました。春は桜、夏はアジサイと訪れる人に親しんで頂いています。

ワンポイント レッスン!

家庭で出来る!

簡易水防工法の例

家庭にあるものを使って、洪水時に家屋への浸水を防ぐことができます。その事例を紹介します。いざという時に役立ちます。

例①

ごみ袋をつかった水防工法

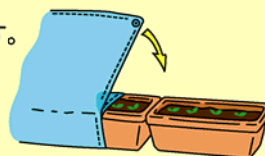


ごみ袋(2重)に水を入れ、家の出入り口などに
ならべることにより、水の浸入を低減させます。

例②

プランターを使った水防工法

土を入れたプランターをシートで包み、
水の浸入を低減させます。



例③

木の板を使った水防工法

木の板などを土のうで固定する
だけでも、水の浸入を低減
させることができます。



トピックス

○吉井川 「水防演習を開催しました」



釜段工



杭打ち(鋼製マット工)



土のうづくり体験



救助訓練



吉井川では平成6年以來13年ぶりとなる水防演習が、6月3日(日)瀬戸内市邑久町豆田地先(吉井川河川敷)で国、県及び吉井川流域13市町村の主催で行われ、防災機関や地域住民などの45団体、約2,000人が演習に参加しました。

演習では、地元住民、地元企業による土のうづくり体験や避難訓練、水防団による水防工法訓練、警察・消防・自衛隊・日本赤十字社等による情報伝達訓練・人命救助訓練等が行われました。(三石)



○洪水に備え水防団との合同巡視を実施しました。



近年、異常気象による集中豪雨が頻発し、増水による水防活動も昼夜を問わず実施する可能性があります。岡山河川事務所では、水防活動に主体的取組みをいただいている水防団の方々に対し、迅速、かつ、的確な水防活動が行えるよう水防強化を目的とした、合同巡視を実施しています。

この取り組みは、平成17年度から実施しているもので、6月10日～24日に実施し、国管理区間に隣接する66分団の分団長さんに、目的、最近の水害状況、各河川の重要水防箇所、浸水想定区域等、情報提供及び情報交換を行なっています。

今後は、市町村が実施する水防訓練、国が実施する水防演習等においても、お互いに積極的に参加し情報共有を行い、一層の水防強化に努めていきたいと考えています。(三輪)

○旭川などの水質を「今年もみんなで調べました!」

旭川の水質実態を把握し、流域全体が連携して水質保全に取り組むため、平成11年からスタートした「旭川流域一斉水質調査」が、6月10日(日)に行われました。

この調査は、「旭川流域ネットワーク(AR-NET)」が主催し、岡山河川事務所と旭川流域連絡協議会が共催で行っており、今年で9回目を迎えました。

旭川流域(110地点)、笹ヶ瀬川流域(6地点)と吉井川流域(17地点)の、本川、支川などを、延べ人数498名で調査し、そのうち149名が子供達の参加でした。結果は、今年も足守川を含む笹ヶ瀬川流域が水系全体でもっとも水質状態が悪く、次いで砂川や倉安川などが良くありませんでした。こうした傾向は慢性的な状況になっていますが、数値的に突出して高い値を示した地点はありませんでした。(若井)



みんなの
VOICE



岡山河川事務所では皆様からのご意見・ご質問を頂き「voice」のコーナーでできるだけ紹介・お答えします。狭み込みのがきで忌憚のないご意見を頂ければと思います。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
みんなのVOICE係

〒700-0914 岡山県岡山市鹿田町2丁目4番36号
Tel.086-223-5101(代表) Fax.086-222-7835
ホームページ <http://www.okakawa-milit.go.jp/>

R100
内閣府 国土100年推進戦略本部